

平成29年度

品川区予算の主な項目

～区議会公明党の要望が反映～



子育て

■待機児解消

待機児童解消のため保育定員を過去最大の1044人拡大します。

■私立保育園の保育士等の処遇改善

保育士等の賃金改善と家賃補助の対象を全職員に拡大し、保育人材と質の向上を確保します。(予算9億5424万9000円)

■認可外保育施設の保育料助成

認可外保育所利用者へ月額で0歳児5万円、1歳児4万5千円、2～5歳児4万円の保育料を助成します。(予算1億513万2000円)

■オアシスルームを増設

オアシスルームを2カ所新規開設します。平成29年4月に12名、平成31年4月に12名の定員拡大し、在宅子育て家庭の利用者増加に対応します。

■子ども食堂開設

子ども食堂の開設とネットワーク構築の支援でフードバンク構築や子どもの居場所づくりを推進します。

■児童相談所の移管

児童虐待防止ネットワークを強化するため、品川児童相談所を都から区へ移管する準備を進めます。

障がい児・者

■区立障害児者総合支援施設

区立品川児童学園を改築し、障害福祉施設の中核拠点としての機能を整備します。平成31年度4月開設に向けて、本年度から本体工事を開始します。(予算11億3510万円)

■「にじのひろば」の負担軽減

障がいのある子を預かる障害者日中一時支援事業「にじのひろば」の月額利用料に上限額を設けて、障がい児のいる就労家庭の負担を軽減します。(負担上限月額：所得区分により0円、4600円、3万7200円)

■アール・ブリュット展

品川区民芸術祭と連携してアール・ブリュット展を開催し、障がい者の芸術作品を通じて障がい者理解を深めます。



(左)岡本俊雄氏展示作品 (右)澤田真一氏展示作品 (2016年アール・ブリュット展in天王洲)

防災

■がけ・擁壁の改修

地域の防災性向上のため、崖・擁壁の所有者へ安全化アドバイザー派遣と改修工事費を助成します。(予算3078万4000円)

■感震ブレーカーの普及拡充

電気に起因する火災を抑制するため、感震ブレーカー設置助成を110件から210件に拡大し、木造共同住宅も対象とします。(予算1178万2000円)

■防災資器材の整備

地域防災力の強化のため「街かど消火栓」など各地域が独自で整備する防災資器材の費用を助成します。(1団体5万円)



街かど消火ハリアー

健康・福祉

■介護施設の整備

【5月開設】東五反田グループホーム(定員18人)
大井3丁目ゆうゆうプラザ(高齢者を主とした多世代の憩いの場)
【6月開設】上大崎特別養護老人ホーム(定員102人、ショートステイ定員39人)

■支え愛・ほっとステーション全地区展開

高齢者の生活支援窓口としての「支え愛・ほっとステーション」を新たに5地区で開設し、区内の全13地域でサービス展開します。

■成人歯科健診の年齢拡大

成人歯科健康診査について、対象年齢を20～70歳までの5歳刻みに拡大し、歯周疾患の早期発見・治療を図ります。



まちづくり・にぎわい

■やさしいまちづくり整備助成

JR京浜東北線大井町駅にホーム柵・エレベーター、東急大井町線荏原町駅にホーム柵などを整備します。(予算1億7473万円)

■品川の魅力をアピール

若者の出会いの場づくりや若者が楽しめるイベントを開催し、しながわの魅力を実感してもらう機会を創出します。

■都市型観光プラン推進

水辺を活用した都市型観光を推進するイベント開催で水辺のにぎわいを創出など、観光事業を展開します。



平成29年度 第1回定例会 会派質問

防災

「街かど消火栓」を 防災体験館に配備

初期消火体制の強化のために、簡易水道消火器具「街かど消火栓」を区の「しながわ防災体験館」に配備し普及・啓発を提案しました。



無電柱化整備計画

都の助成制度の積極的な活用に向けた、(仮称)品川区無電柱化推進計画の早期策定を改めて提案しました。

災害時のペット避難

ペットの同行避難が安心してできるよう、区が先導してペット同行避難に関する情報を整え、マニュアル整備を進めるよう求めました。

健康・福祉

不妊治療費助成の拡充

都が新年度予算案に計上した約2億円の一般不妊治療費助成を活用して、区の一般不妊治療費助成と特定不妊治療費助成の拡充を求めました。

高齢ドライバーの運転免許返納を促す代替交通手段の確保

高齢期になっても安心して外出できるよう、需要に応じて運行する、デマンドタクシーなどの代替交通の確保を検討するよう提案しました。

認知症カフェについて

運営主体の自主性・地域性を損なうことがないように配慮するとともに、区内で1万2千人が受講している認知症サポーターの活用などで地域に偏りのない事業展開を求めました。

障がい児・者

医療的ケア児の保育園入園について

国も医療的ケア児の保育において地方公共団体に必要な努力を義務づける背景の中、区立保育園での受け入れの必要性について区の見解を求めました。

障がい者の成年後見制度の利用促進

障がい者の利用促進に向けて、ケアマネージャーやヘルパー等の介護職の方々へ、制度の理解や啓発のための説明会等を実施するなど、対象者の早期発見による利用の促進を求めました。

施設での同性介護について

品川区の高齢者・障がい者施設は、男性には男性、女性には女性の介護者という同性介護の原則を守るため、区内全ての施設で必要な改善が図られるよう求めました。



環境

食品ロス削減

子ども食堂開設・ネットワーク支援事業の中で、「フードバンク機能」を検討していくとあるので、環境課の食品ロス削減事業と連携して食品ロス削減の効果をあげるよう提案しました。

子ども・教育

待機児童対策

平成29年度定員拡大数1044人に加え、さらに都の予算を積極的に活用するなど平成30年度4月入園に向けた保育定員の拡大を求めました。

学校トイレの洋式化

90%以上洋式化するとの方針において、目標達成年度を明らかにすること、またトイレ改築に際しデザインやカラーリングを子どもたちで話し、教育の場として活用することを求めました。

跡地活用

小山台の国家公務員宿舎跡地活用について

会派として、区が取得を希望している5,000㎡の活用については、集会施設などの地元要望を含め、特別養護老人ホームや保育園などを求めてきましたが検討状況の報告を求めました。

アメニティフォーラム21 (大津市)2月10日~11日

びわ湖大津プリンスホテルで開催されたアメニティフォーラム21を視察しました。今年で21回目になる当フォーラムは、毎年、障がい者福祉の関係者が多数集い、充実したプログラムが展開されています。今回は、エマニュエル・トッド氏に学ぶ“人口減少社会”と、昨年、相模原市で起きた障がい者に対する凄惨な事件を受けて、“今あらためて共生社会を”とのテーマを基調に展開され、アール・ブリュットに代表される障がい者理解の輪を広げゆくフォーラムでした。



ホースセラピー(大島町)2月1日

乗馬が麻痺に伴う神経障がいにも有効であり、自閉症など発達障がいを持つ人の学習能力の向上に役立つことから、欧米では保険適用がされている「ホースセラピー」の視察に伊豆大島のブルーヘイズ農場を訪れました。同農場では、知的障がい者施設と連携したセラピーを月3回実施しており、その効果について利用者や施設の方から話を伺いました。区内にある大井競馬場での「馬とのふれあい事業」に区も連携し、障がい者の機能回復の仕組みを目指していきます。



シティプロモーション(豊後高田市)1月16日

視察のメインは、かつての活気を蘇らせようと平成13年に立ち上げた「昭和の町」。当初7店舗からスタートした昭和の町認定店は現在40店舗ほどになり、いまでは年間約40万人もの来訪者を迎える商店街に変わっています。他に「恋叶ロード」(恋が叶う道の意味)と銘打つ観光スポットや小型電気自動車の無料貸出し、県外からの移住定住促進のための空き家バンク制度を視察しました。今後、品川区のシティプロモーションに活かすよう取り組みます。



視察報告

公明党の区議会議員

- | | | | |
|---|---|--|---|
|  若林 ひろき |  たけうち 忍 |  浅野 ひろゆき |  このの 孝子 |
|  塚本 よしひろ |  あくつ 広王 |  つる 伸一郎 |  新妻 さえ子 |

皆さまの声をお聞かせください。お気軽に、ご意見・ご要望をお寄せください。

電話 03(5742)6817

FAX 03(3774)3366

Eメール info@shinagawa-komei.org